

序文　（信仰雜話）

私は約三十年、信仰生活を続けて来たが、其長い間殆んど茨の道であつた。官憲の圧迫借金之苦しみ、病苦との闘い等々、筆舌に尽し難きものがあつた。人間としての凡ゆる苦しみを体験したような氣もする。その半面神の守護、

人々の支援等も尠からずあつて、苦樂相半ばするという訳であつた。それ等によつて神仏の實在、信仰の妙諦、生と死との意義等々、幾多の貴い經驗を経て知り得た中から、興味あるもの、教訓に富んだもの等を集録して成つたものが此著である。信仰者にも無信仰者にも、学者にも一般人

にも、理解され得るよう意を注ぐと共に、此著を読んで
かなりとも安心立命の目的に資するを得れば幸いと思う
次第である。(S 23. 8)